

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	浜田市立三階小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	20
児童数	53	61	56	49	66	54	2	341	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけ主体的に学ぶ子どもの育成
(基礎学力の定着と学ぶ力の向上をめざした算数科の授業づくり)

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・算数
一昨年度より全学年の算数に少人数担当が入り、きめ細かな指導の充実に努めてきたので、本年も継続して研究を深めるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら学び、自ら考え、表現できる子どもの育成。 研究の見通し(仮説) 一人一人の子どもが生き生きと課題に取り組み、追求する場面のある学習環境の設定と学習展開過程を構築すれば、自ら学び、自ら考え、表現できる子どもを育成することができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 少人数授業体制のあり方の模索 ・教育課程の編成 ・授業形態 ・指導計画と評価とその共通理解 ・子どもの興味、関心、意欲、態度の把握 子どもの学習意欲を高め、自ら学習を進めていく教師の支援 ・教育課程の編成(教科担任制・・・これに関しては本年度末から来年度春にかけて) ・学習課題の設定 ・課題追求 ・話し合いの場 ・調べ学習、反復学習 ・教材研究、教材開発 ・評価</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力を身につけ主体的に学ぶ子どもの育成 (基礎学力の定着と学ぶ力の向上をめざした算数科の授業づくり)</p> <p>研究の見通し 児童が主体的に取り組み、数学的に考える力を高めたり、算数を活用していく態度を身につけたりできる学習活動の工夫。</p> <p>【 昨年度と変更した理由 】 ・昨年度は、研究の対象教科が複数であり、校内研究としての深まりがあまりなかった。</p>
--------	---

・昨年度の算数科はペーパーテスト等に表れやすい目に見える学力を定着させることのみが目向きすぎて、14年度末に行った学力テストで「知識・理解」「表現・処理」の観点における学力に比べ「数学的な考え方」や「興味・関心・意欲」の観点における学力が低いという結果が得られた。

研究の内容・方法

児童が主体的に取り組み、数学的に考える力を高めたり、算数を活用していく態度を身につけたりできる学習活動の工夫。

「考える力の差異」に対応した習熟度別少人数学習において、どちらのコースも同一のねらいに到達するために、それぞれのコースの子どもの実態に合った学習活動を工夫する。

基盤的な指導としては、毎月行われる全校一斉の確かめテスト「花まる算」、月1回の補充日「ぐんぐんタイム」、毎週火曜日の朝自習に担任と共にする「計算の日」がある。

平成16年度

テーマ

確かな学力を身につけ主体的に学ぶ子どもの育成
(数学的に考える力を高める算数科の授業づくり)

研究の見通し

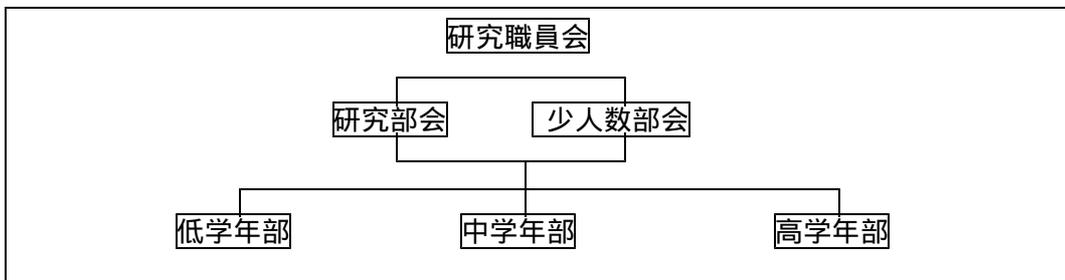
児童が考える楽しさを味わい、数学的に考える力を身につけることができる指導と評価のあり方を探る。

研究の内容・方法

・児童が「数学的な考え方」を主体的・発見的に身につけていくことができるための学習課題・算数的活動・指導と評価など。

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

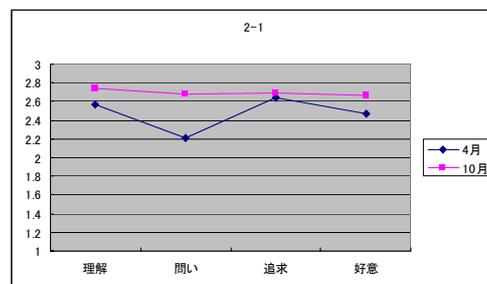
算数に対する意識調査を全校で毎学期行い、いくつかの観点で意識の変容を調べた。その結果、特に「好意度」「追求意欲」の高まりが伺えた学級がいくつか出始めた。算数日記などにも、話し合うことや考えることが楽しいと書く児童が増えた。

これは、「目に見える学力」はついて、算数への興味・関心があまりなかった昨年度に比べ、「考える楽しさ」を追求した結果だと考えられる。

「早くやり方を教えてください。」

といった児童が、

「先生、ヒントは言わないで、考えたいから。」



と言うようになって来た。

1つの課題に対してじっくり考え、解決していく楽しさを味わえるようになった。以下、授業中に書いている児童の算数日記を挙げる。

あさがおグループとは、考えることを苦手とする児童の少人数グループ。ひまわりグループはそれ以外の児童の少人数グループである。

今日、2時間目算数があって、すごく楽しかったです。みんなで解けない問題は本当になんだなーと思いました。今度からもこういう算数がいいです。みんなで考えられるからです。(あさがおグループより)

今日は、わり算の1つの答えになる式がびっくりするほどありました。ぼくは、わり算しているうちにあって楽しいと思いました。考えれば考えるほどすごいなあと思いました。(ひまわりグループより)

質問がいろいろ出て、それをみんなで全部解けたのですごく楽しかったです。みんなで考えたら、質問や次の課題が出てくるので算数は楽しいなあと思いました。

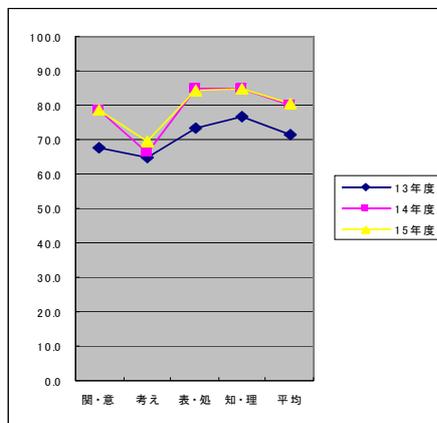
(T・Tによる一斉指導より)

全校一斉学力テストも一昨年度より行っている。これは、全校の3年間の平均を表したものである。

昨年度より「学力向上フロンティア校」として取り組み始め、一昨年度から昨年度にかけて大幅に学力テストの学校平均値が伸びた。

今年度は昨年度の反省により、目に見える学力だけでなく目に見えない学力も上げることに力を注いだ。そのため、わずかではあるが、「数学的な考え方」の得点が上がった。

数学的な考え方は、今年度からの取り組みであり、試行錯誤を繰り返しやっと共通理解をして研究が深まり始めたところである。また、数学的な考え方は、児童に考える力をつけるという、一朝一夕には成果が現れないものである。このわずかな伸びも私たちにとっては嬉しい成果といえる。



2. 今後の課題

学力・算数への意識、共に全体的には向上してきているとはいえ、まだまだ個々のレベルでは、「算数嫌い」や「算数への苦手意識」を持つ児童は少なくない。一言で「考えることを楽しむ授業づくり」といっても、容易ではないことを深く感じている。また、「ひまわりコース」と「あさがおコース」に分けてアンケート結果を比較してみると、「ひまわりコース」に比べて、「あさがおコース」の児童の「好意度」や「追求意欲」の伸びはまだ小さい。もともと算数に対する苦手意識の強い「あさがおコース」の児童に対してこそ、興味・関心が湧くような学習活動を工夫しなければならないと感じている。

また、「数学的に考える力」や「興味・関心」は、すぐに成果が現れるものではない。各学年の単元の特性に合わせた系統的な指導が必要であると感じている。また、考えたり話し合ったりするためには、表現力も大切であり、国語を始めとする他教科との関わりも考えていかななくてはならない。現在、少人数担当が加わって授業ができる国語の時間が全学年1～3時間あるが、その時間の有効な活用方法も今後の課題である。

加えて、「知識・理解」「表現・処理」的な内容の定着も決して疎かにできない。「花まる算」や「ぐんぐんタイム」「朝自習」の取り扱いについても、計画的に内容を考えていかななくてはならないと考えている。

最後に、「数学的に考える力」は、その時間内にどれだけ身についたかを捉えることが難しい。現在のところ、児童の算数ノートや算数日記、2人の教師の観察が評価の1番の頼りとなっているが、一人一人の考える力をどのように評価し指導に生かしていくかが今後の課題である。

学力等把握のための学校としての取組

- | | |
|--|--|
| ○ CRT (教研式標準学力検査)・・・平成13年度より毎年全校一斉に実施。
算数のみ実施し、研究の検証材料とし、指導の改善に活用。
実施時期...平成13・14年度(2月初旬)
平成15年度(12月中旬) | ○算数に対する意識調査・・・今年度より、毎学期、全学年実施。
算数に対する意識の変容を追うことで指導の改善に活用。 |
|--|--|

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- | | | |
|---|--|--|
| *平成14年度
校内訪問指導(社会科)・・・浜田市内各小学校へ案内。
校内研究紀要作成 | *平成15年度
フロンティアスクール研究中間発表会(算数)平成15年10月21日・11月11日
・・・浜田市・那賀郡内各小学校及び浜田管内フロンティア校へ案内。
校内研究紀要作成 | *平成16年度
フロンティアスクール研究発表会(算数)
平成16年10月末～11月始め実施予定
校内研究紀要作成・配布予定 |
|---|--|--|

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | |
|----------------------|--|--|---|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下
<input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級
<input type="checkbox"/> 25学級以上 | <input type="checkbox"/> 7～12学級
<input type="checkbox"/> 19～24学級 | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導
<input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導
<input type="checkbox"/> その他 | |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語
<input type="checkbox"/> 生活
<input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> 社会
<input type="checkbox"/> 音楽
<input type="checkbox"/> その他 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数
<input type="checkbox"/> 理科
<input type="checkbox"/> 図画工作
<input type="checkbox"/> 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | |